

常任委員会・閉会中の事務調査

総務文教常任委員会

今年度の歳入は19億400万円、20年度比で約2億4,700万円増を見込んでいます。これは、20年度の繰越明許部分の事業が持ち込まれたこと、経済対策特別交付金が入るため、22年度からは徐々に歳入は減り始め、平成26年度には合併特例債の終了や交付税の一本化で、約12億円の赤字になる試算結果となり、また財政調整基金の残高も24年度にはほぼゼロになる試算です。このままでは再建団体に陥るのは時間の問題であるため、今後も財政健全化に努めるよう要請するものです。

○閉会中の継続調査事項（9月定例議会まで）

(1) 地域活性化・経済危機対策臨時交付金及び地域活性化・公共投資臨時交付金の対象事業と選定について

(2) 小学校の整備計画（第2次）について

(3) 視察研修について

平成21年5月11日に総務文教常任委員会を開催し、所管事務調査を行いました。

一 水原中学校の全面改築と学校のあり方、まちづくりとの関わりについて

平成21年度の事業として水原中学校改築構想検討委員会を設置し、基本構想に関する提言を依頼。提言を基に教育委員会基本構想案を作成、基本設計業務を委託することを進めていく予定で、検討委員会開催後、先進地視察を行い、提言原案を作成。その後作成過程において、広く市民からも参画してもらうためパブリックコメントを実施、10月中旬に基本構想を纏め上げて市長へ提出することになっています。

期限が迫っていることから庁舎内の関係課で早急に素案を作る必要があると思われます。

二 市立小中学校の現地視察について

今回は、水原中学校の校舎内や生徒の授業風景を視察し、給食の試食を実施しました。

平成9年の学校給食開始以来、調理業務を委託し、主食である米は、市やJAのご理解、ご協力により100%市内の米を取り入れていきます。今後も市並びにJAより更にご協力いただき子ども達においしい米を提供できるように、最善の努力をするよう要望しました。

三 水原郷病院に関しての他の事業に与える財政面の影響について

昨年12月の全員協議会で示された資料を参考とした場合、病院関係では平成21年度に基本計画の策定と建設基金の積立てを開始し、23年度に用地取得等、25年度に用地造成等、26年度から27年度に本工事、28年度に既存施設取り壊しを予定しており、概ね100億円。その他に葬斎場約16億円、水原中学校の改築で約25億円（金額はあくまでも概算）をみている中で今後10年間の財政状況（現在のサービスマン量を維持した場合の状況）をシミュレーションしてもらいました。

平成21年4月17日及び5月20日に社会厚生常任委員会を開催し、所管事務調査を行いました。

一 コミ不法投棄の現況確認について

平成21年4月17日

市内平坦地及び市街地隣接地区を主に巡回確認を実施し、今回の巡回箇所での共通点として、幹線道路等での駐車スペース周辺での空き缶類や、レジ袋等に入ったゴミの不法投棄が目立ち、安野川堤防では、生活関連ゴミの他、古畳やホイール付きタイヤ等の粗大ゴミの不法投棄の現状を確認。こうしたゴミの不法投棄処理経費として平成20年度までの5年間で約340万円の市費が投じられています。

当市では「阿賀野市ごみの散乱防止等に関する条例」が制定されており、環境美化の促進とより快適な生活環境確保のため、条例の周知と啓発活動をより積極的に講ずると共に、悪質と思われる事案には、関係機関と連携のもと毅然とした対応も必要と思われます。

二 新白鳥荘の利用状況について

平成21年5月20日

5月20日現在での入所者は、119名（女性94名、男性25名）となっており、要介護度別入所者数は次表のとおりとなっています。



水原中学校

社会厚生常任委員会



安野川堤防



新白鳥荘

○閉会中の継続調査事項（9月定例議会まで）

(1) フィンランドプロジェクトと市の福祉施策について

(2) 水原郷病院民営化の進捗状況について

又増設分新規20名の受入状況は、女性15名、男性5名、入所前居場所別では、自宅4名、療養型病床6名、老人保健施設7名、グループホーム3名という状況でした。

新白鳥荘は、旧施設の多床室型から個室型へ変わった事による居住費負担増への理解に苦労したが、現状ではプライバシー確保や居住環境が格段に向上した事により、入所者や家族の方の評判はすこぶる良好との事でした。

介護度	人数
0	1
1	9
2	23
3	38
4	49
5	119
計	119

産業建設常任委員会



阿賀野バイパス

平成21年5月14日に産業建設常任委員会を開催し、所管事務調査を行いました。

一 平成21年度工事施工計画について

国・県事業を含む本年度の建設事業等の施工計画についての調査を行い、市道安野川右岸線道路改良工事、国道49号阿賀野バイパス工事、県営安野川河川改修工事の現地調査も併せて実施しました。

建設課、上下水道局等の所管工事については、厳しい市の財政事情及び起債枠制限等によりその事業費は年々減少し、本年度も厳しいものとなっている。市民の要望に応えるため効率的な施工が望まれるとともに、状況によっては年度途中においても事業の補正等の検討も必要になるものと思われます。

安野川右岸線道路整備計画は、国道460号と新白鳥荘脇の若葉町安野川線を、安野川に沿って市道七島月崎線及びJR羽越本線を横断ボックス交差して結ぶ路線で、平成25年度までの整備期間を目標に事業が進められています。この道路の完成により、下条踏切の朝夕の通勤時間帯の渋滞解消が期待でき、市街地と国道49号阿賀野バイパスを結ぶ重要な役割を果たすもので、事業の促進が望まれます。

国道49号阿賀野バイパスは、県道水原亀田線から国道460号までの第17工区で盛土等の工事が進められているほか、遺跡発掘調査が実施されている。県営湛水防除事業安野川地区については、現在小里川合流点までの5,170メートルについて、1期から4期地区として採択され事業を実施中で、進捗率は事業費で全体39.8億円のおよそ50パーセントとなっています。小里川合流点から上流は、安野川5期地区として、安野川は1,100メートル、小里川が1,880メートルの採択が計画されています。

国道49号阿賀野バイパス、安野川改修事業の直轄、県営事業についても本市にとって重要事業で、市民もその完成を待望しているもので、更なる整備促進を一層進めるとともに、市事業との効率的な連携を要請するものです。

○閉会中の継続調査事項（9月定例議会まで）

(1) 商工業振興施策の取組み状況について

(2) 先進地視察研修の実施について